

株式会社ソルクシーズ (東証1部:4284)

デジタルトランスフォーメーションで
日本のビジネスを導く
ソルクシーズ

2021年12月期
第1四半期

機関投資家向け
説明資料

2021年6月
<https://www.solxyz.co.jp/>



会社概要・グループ戦略



会社概要詳細



株式会社ソルクシーズ

〒108-0023 東京都港区芝浦3-1-21

- 金融・通信・基盤分野などのシステム開発に専門特化
- 生活や企業のシステムを支えるインフラを、ワンストップで構築・運用する企業集団

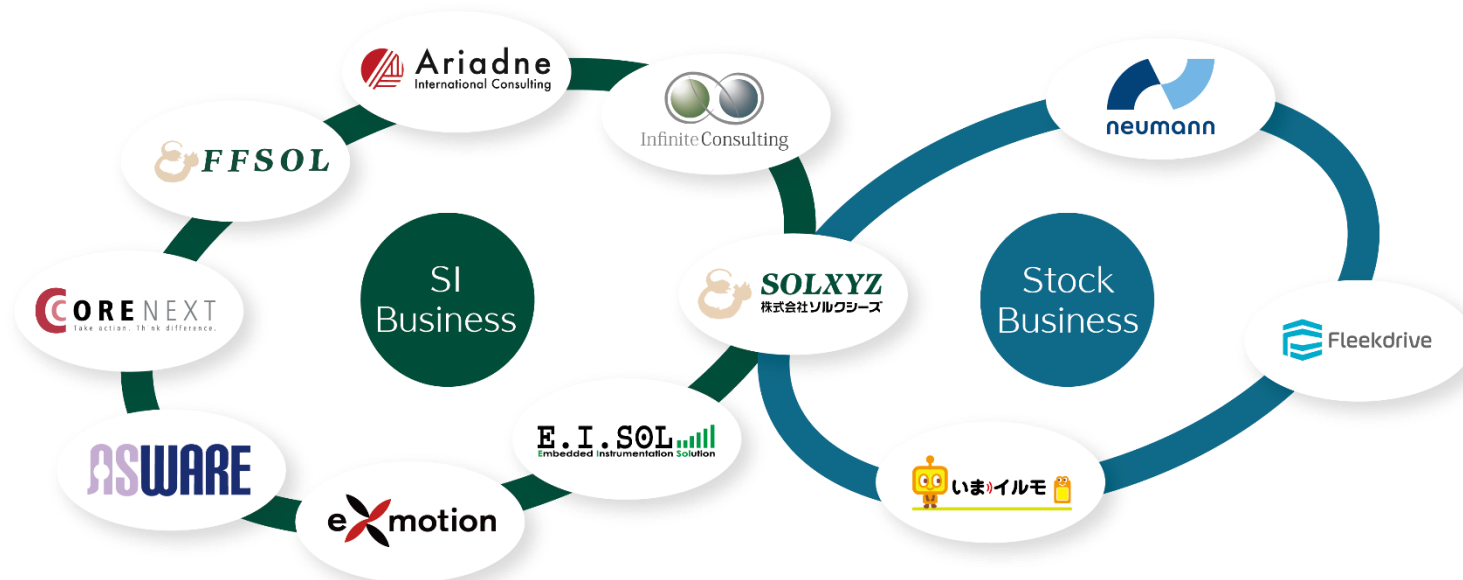
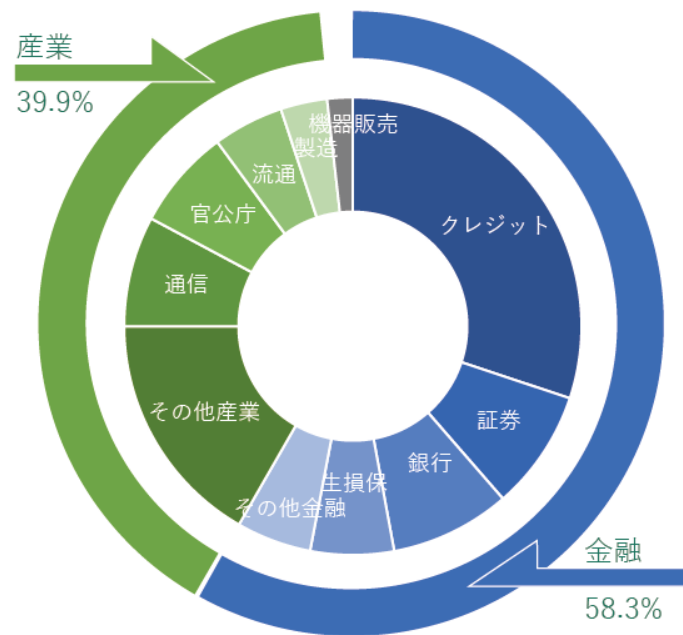
■ 社長	： 長尾 章		
■ 設立	： 1981年2月	(2021年度は42期目)	
■ 資本金	： 14億9,450万円	(2020年12月末現在)	
■ 売上高	： 131億8,630万円	(2020年12月期連結実績)	
■ 営業利益	： 8億4,813万円	(同上)	
■ 従業員	： 755名	(2020年12月末現在連結合計)	
■ 主要株主	： SBIホールディングス(株)	2,150千株	16.0%
	(株)ビット・エイ	1,320千株	9.8%
	長尾 章	559千株	4.2%
	(株)ヤクルト本社	530千株	4.0%
	日本証券金融(株)	297千株	2.2%
	※自社株	1,291千株	9.6%
	※発行済株式数	13,410千株	
	(2020年12月末現在)		
■ 上場市場	： 東京証券取引所 市場第一部(証券コード:4284)		

■ グループ会社			
(株)エフ・エフ・ソル			(96.3%)
(株)イー・アイ・ソル			(100.0%)
(株)インフィニットコンサルティング			(100.0%)
(株)ノイマン			(100.0%)
(株)エクスマーシオン	東証マザーズ(4394)		(55.0%)
(株)コアネクスト			(100.0%)
(株)アスウェア			(100.0%)
アセアン・ドライビングスクール・ネットワーク(同)			(75.7%)
(株)Fleekdrive	(2019年5月7日営業開始)		(100.0%)
(株)アリアドネ・インターナショナル・コンサル ティング			(76.9%)
■ 親密出資先			
エンカレッジ・テクノロジー(株)	東証マザーズ(3682)		(3.4%)
(株)エーアイ	東証マザーズ(4388)		(7.1%)

グループ構成

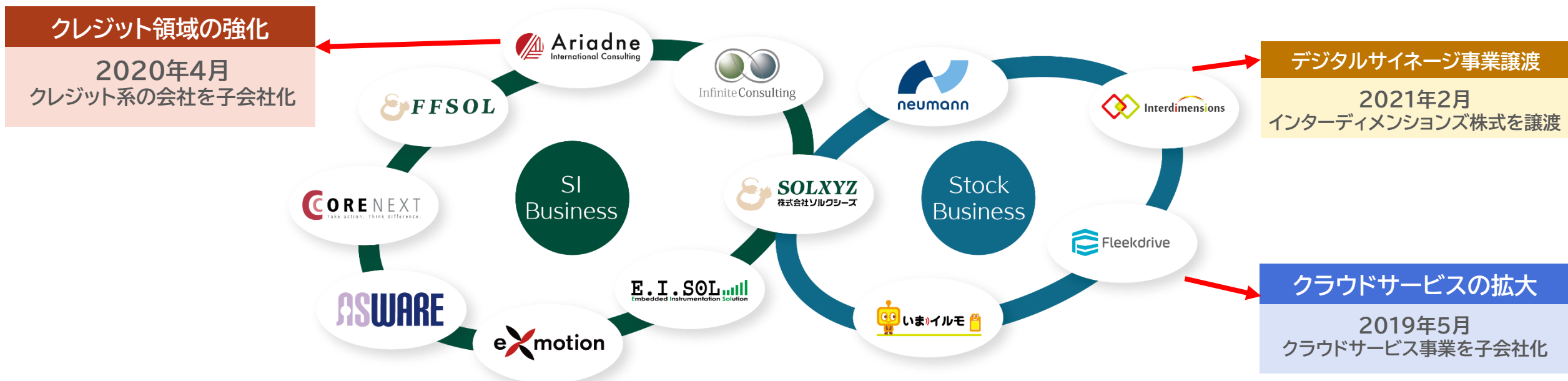
- ソフトウェア開発のうち、60%弱を金融系が占める
クレジットや銀行系などを中心にソリューションやサービスを提供
- IoTや自動運転等、専門技術に長けた子会社10社を統括

業種別の構成比

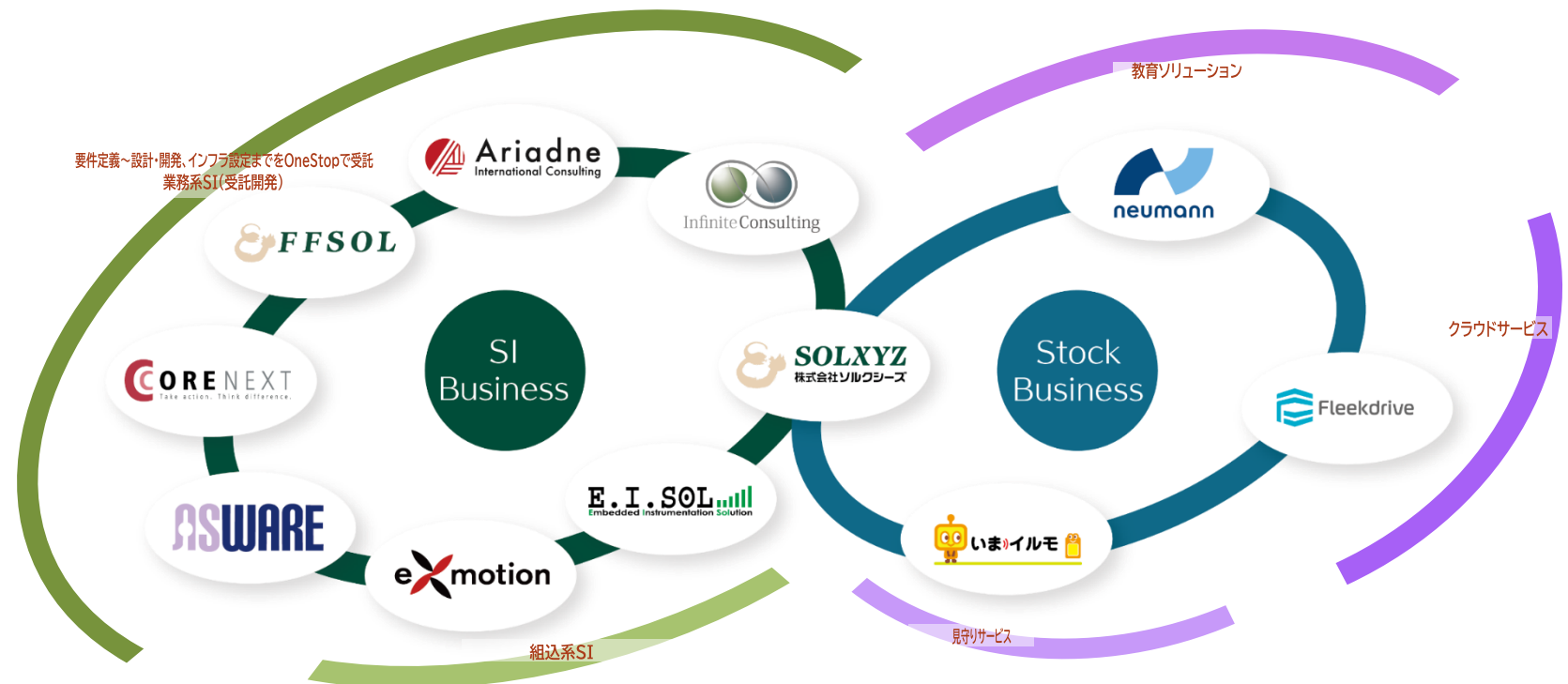


当社グループの成長モデル

- 継続的成長に向け、**S I ビジネス**と**ストックビジネス**の両輪を拡大（両輪施策）
（ストックビジネスについてはM&Aを主軸に展開）
- 利益率向上に向けた、**エッジコンピューティング**（自動車、I o T等）**領域**への拡大
- **スタートアップ企業への出資と育成**による**新技術領域**と**IPO企業の創出**



グループ概要(SIビジネスとストックビジネスの両輪)



SIビジネス			
会社／サービス名	事業／サービスの内容		主要顧客
インフィニットコンサルティング	SI	上流工程のコンサルティング	証券業、電気機器業、医療機器業
エフ・エフ・ソル	SI	銀行系に特化	ネットバンク、都銀、地銀、信用金庫
コアネクスト	SI	投資顧問系に特化	投資信託業、投資顧問業
アスウェア	SI	ICTインフラの設計・構築・保守	SIベンダー、通信業
エクスマーシオン	組込	製造業等の設計支援	自動車製造業、医療機器製造業
イー・アイ・ソル	組込	制御・計測系の組込システム、IoT	装置製造業、計測機器製造業
NEW! アリアドネ・インターナショナル・コンサルティング	SI	クレジット業務全般に関する企画、提案、信販・クレジット コンサルティング	

ストックビジネス		
会社／サービス名	事業／サービスの内容	主要顧客
ノイマン*	教育機関向けソリューション開発・販売	自動車教習所、学校、塾
いまイルモ	IoTによる見守りサービス	個人、介護施設
(株)Fleekdrive	クラウド環境上でのコラボレーションソリューション	各種企業
※19/12よりノイマンはtecoを吸収合併		

主な子会社の状況: エクスモーション(自動車・メディカル)

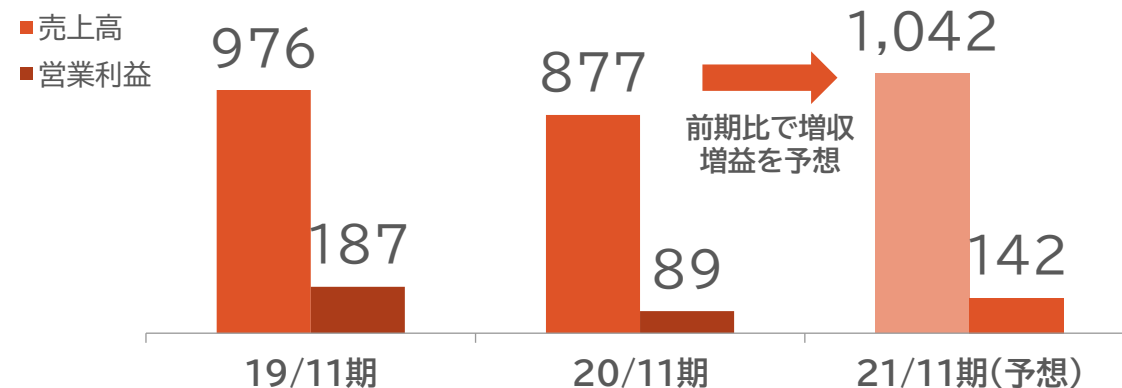
(株)エクスモーション (4394・東証マザーズ)



- ・ 組込みソフトウェア開発に特化したコンサルティングファーム
自動運転 (CASE*) や医療分野に強み
- ・ 新型コロナウイルスの影響や戦略的投資が重なり20/11期は減収減益も、先行投資の成果としてリモートワーク時代に即した2つの新規ソリューションを本格スタート
- ・ 今期は新型コロナウイルスの影響からの回復を見込み、前期比で増収増益を予想



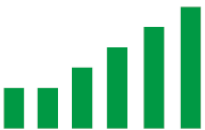
エクスモーション 通期業績予想 (百万円)



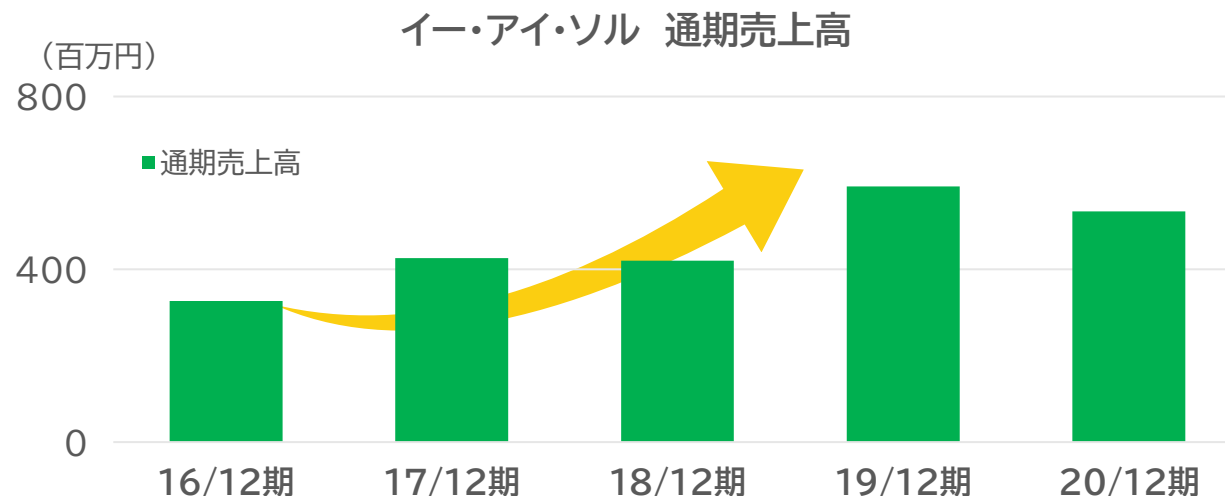
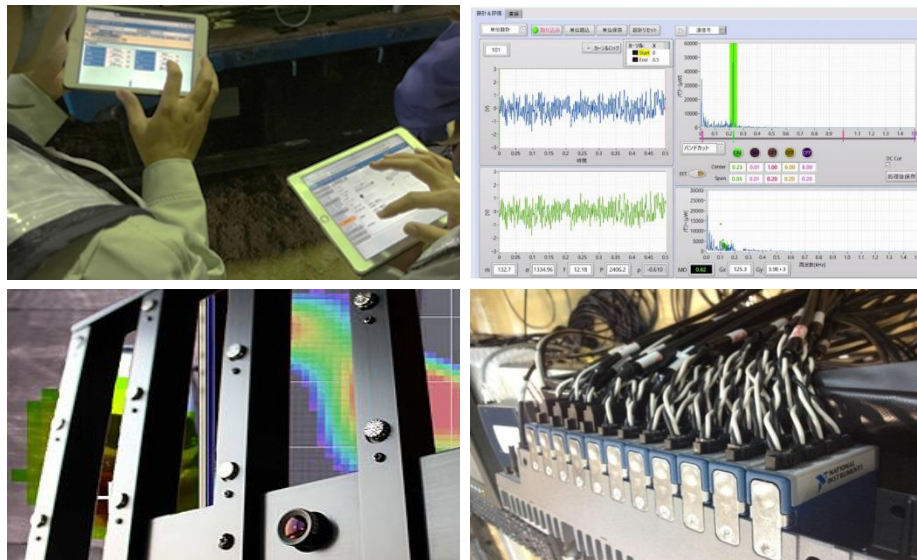
*CASE = Connected (つながる)、Autonomous (自動運転)、Shared (共有)、Electric (電動)、以上の先端技術分野の頭文字を組み合わせた総称

主な子会社の状況:イー・アイ・ソル(IoT・IIoT)

(株)イー・アイ・ソル

E.I.SOL 
Embedded Instrumentation Solution

- ・ IoT (IIoT) ・組込・制御・計測関連 (特にセンサー系) のソリューションに特化したソフトウェア受託開発業
- ・ IoTを駆使した工場の「予知保全システム」は引き続き好調、NI (日本ナショナルインスツルメンツ)社のデバイスCompactRIO等とEISOLの組込ソリューションの組み合わせであり、既に導入実績あり
- ・ 20/12期は前期に特需があったうえ、製造業の投資控えもあり減収減益も、IoTソリューション、受託開発ともに成長傾向は変わらず

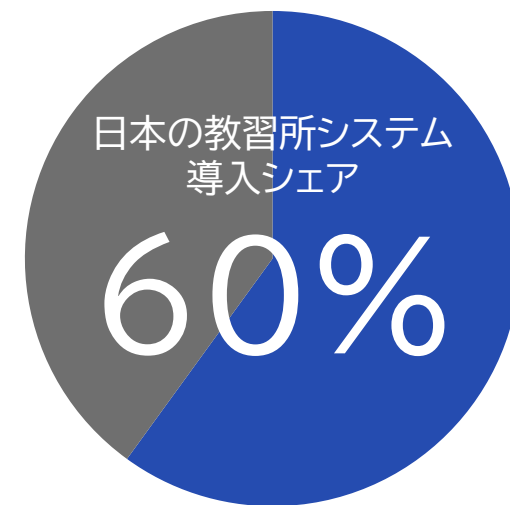


主な子会社の状況：自動車教習所システム(ノイマン)

(株)ノイマン



- ・ 自動車教習所向けのeラーニングシステムの開発等、各種ソリューションを提供、国内自動車教習所における主力システムの導入シェアはおよそ60%を占める
- ・ 初回の緊急事態宣言では教習所の停止により新型コロナウイルスの影響を大きく受けたが、宣言解除後はV字回復
- ・ ベトナム向けの開発も同様に再開した他、新商材の販売も開始
- ・ 2021年4月オンライン学科教習ツール「N-LINE」をリリース。既に75校超の教習所から受注（2021年4月現在）

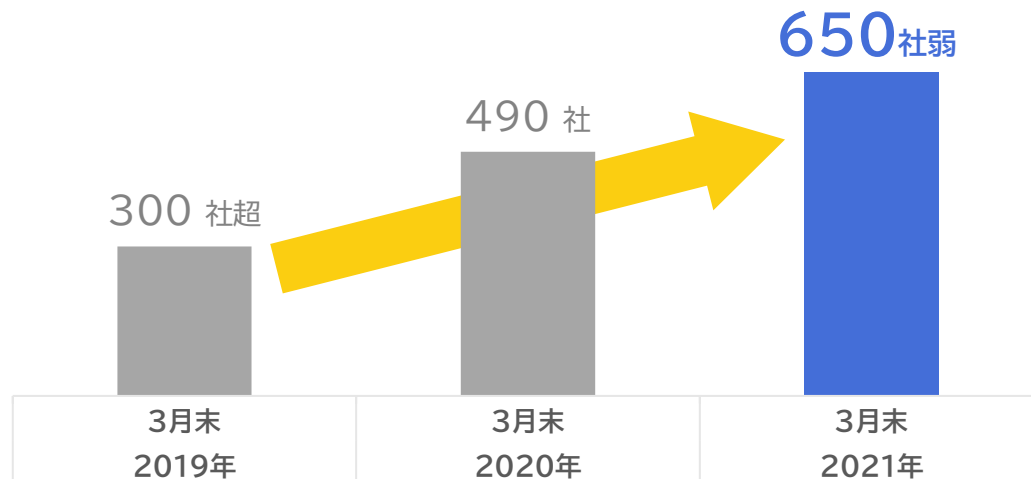


主な子会社の状況: (株)Fleekdrive(クラウドサービス)



SaaS型クラウドサービス「フリークドライブ」

Fleekdrive 累計契約社数の推移



- ・クラウド環境上でのコラボレーションソリューションを展開
- ・SaaS型のサブスクリプションモデルであり、契約社数や売上高は積み上がりのモデル
- ・大手含め契約社数は順調に増加し、**3月末で650社弱**、解約率も低い水準で推移
- ・セールスフォース・ドットコムとも連携、顧客評価で最高位獲得
- ・現状国内での競合はなく、最大手の競合は某海外ユニコーン企業
- ・既に粗利ベースでは利益貢献をしているものの、営業利益以下での貢献は22/12期以降の予定
- ・テレワークに伴う需要を背景に堅調に推移、無償キャンペーンの効果は限定的も、本来の有償契約が好調
- ・**今後はERP製品としての展開も視野に育成**

注力分野

クラウドコンピューティング ((株)Fleekdrive)

- ・FleekdriveとFleekformが中心の企業向けコンテンツ管理サービス
- ・他サービスとの連携も推進
- ・現在650社弱の契約実績
- ・テレワークを背景に市場拡大を図る

CASE ((株)エクスモーション)

- ・エクスモーションが、コネクティビティ(接続性)・オートノマス(自動運転)・シェアード(共有)・エレクトリック(電動化)等に対応する設計支援ビジネスを、大手自動車メーカー向けに実施
- ・豊田通商(株)との資本・業務提携及びコアパートナー4社への選定をテコに、事業規模が拡大

AI ((株)ソルクシーズ)

- ・資本参加先の(株)アックスの技術の中核に、既存顧客へのAIソリューションを企画
- ・UiPath(株)及びSBI AntWorks Asiaとの連携により、特に金融や製造業の開発。現場で必要とされている、RPA技術を用いたソリューションの提供が可能

IoT ((株)EISOL、いまイルモ)

- ・EISOLのIoTソリューション「状態監視/予知保全システム」が中心
- ・国内の製造業で稼働実績あり
- ・見守りソリューション「いまイルモ」も、全国各地で実証実験が進行中

FinTech ((株)ソルクシーズ)

- ・SBIが進めているブロックチェーン等を活用した各種ビジネスに技術協力を実施
- ・SBI主催の各種コンソーシアムに参加し、開発案件を創出
- ・資本業務提携先のジーフィット(株)の商品展開や新機能開発にも協力予定

ETC...

- ・ソルクシーズグループの総力を挙げて、デジタルトランスフォーメーション(DX)に取り組んでいきます

業績概要： 2021年12月期第1四半期決算



エグゼクティブ・サマリー

■ 第1四半期において過去最高の売上高・営業利益を達成

…売上高は34.5億円(前年同期比+9.6%)、営業利益は2.8億円(同+97.0%)と好調な推移

■ 事業ポートフォリオの見直しでDXニーズに集中、収益性も改善傾向

…デジタルサイネージ事業の撤退とリソース集中化で収益性が改善。各利益率は過去最高水準で推移

■ クレジットやFinTech関連の案件が増加、子会社も成長路線へ復帰

…収益性の高いクレジットやFinTech関連分野の案件が増加。新型コロナウイルスの影響も軽微

■ 業績予想進捗は堅調も、現時点では予想据え置き

…対上期、通期いずれも進捗率は堅調だが、一部案件の期ズレや新型コロナウイルスの影響による経済環境の変化を考慮

第1四半期決算 損益サマリー

- ・第1四半期単独では売上高、各利益において過去最高額を達成
- ・組織再編の効果やデジタルトランスフォーメーション(DX)投資の高まりにより、案件の質も向上

(単位:百万円)	2020/12期 1Q	売上高比	2021/12期 1Q	売上高比	前年同期比 増減率
売上高	3,150	-	3,453	-	+9.6%
売上総利益	683	21.7%	853	<u>24.7%</u>	<u>+25.0%</u>
販売管理費	535	17.0%	563	16.3%	+5.2%
営業利益	147	4.7%	289	<u>8.4%</u>	<u>+97.0%</u>
経常利益	156	5.0%	317	9.2%	+103.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	96	3.1%	566	<u>16.4%</u>	<u>+488.0%</u>
EPS(円)	8.05	-	46.90	-	+482.6%

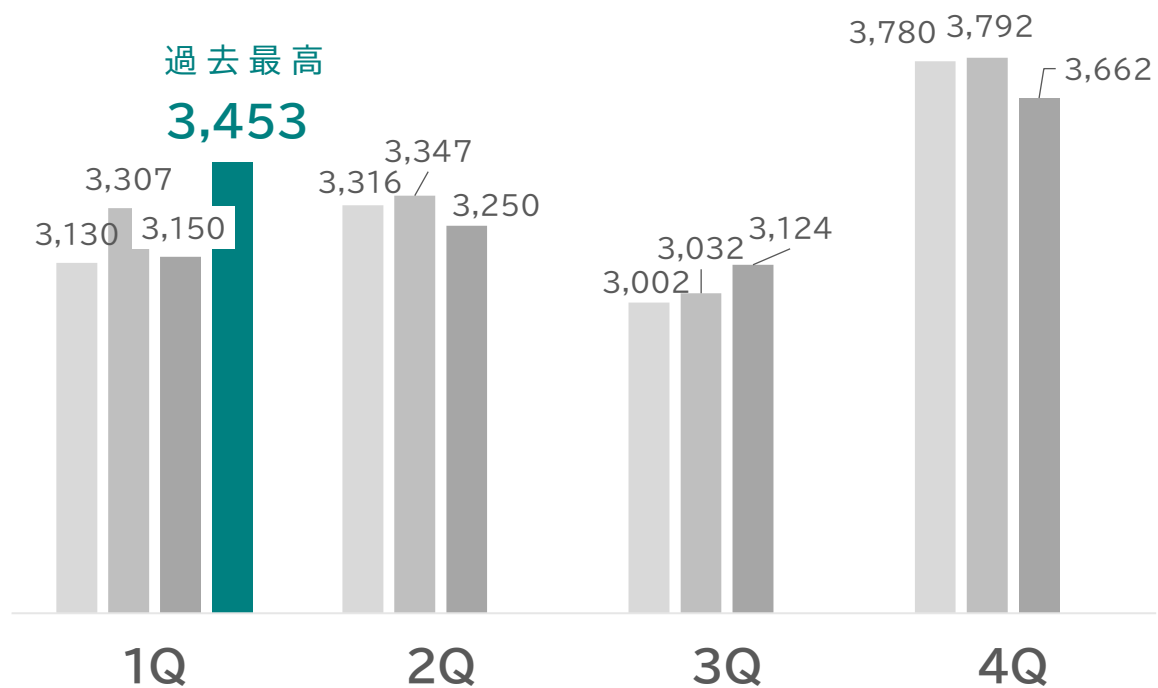
四半期別の業績推移

・過年度の四半期と比較しても好調に推移

売上高(四半期別)

(百万円)

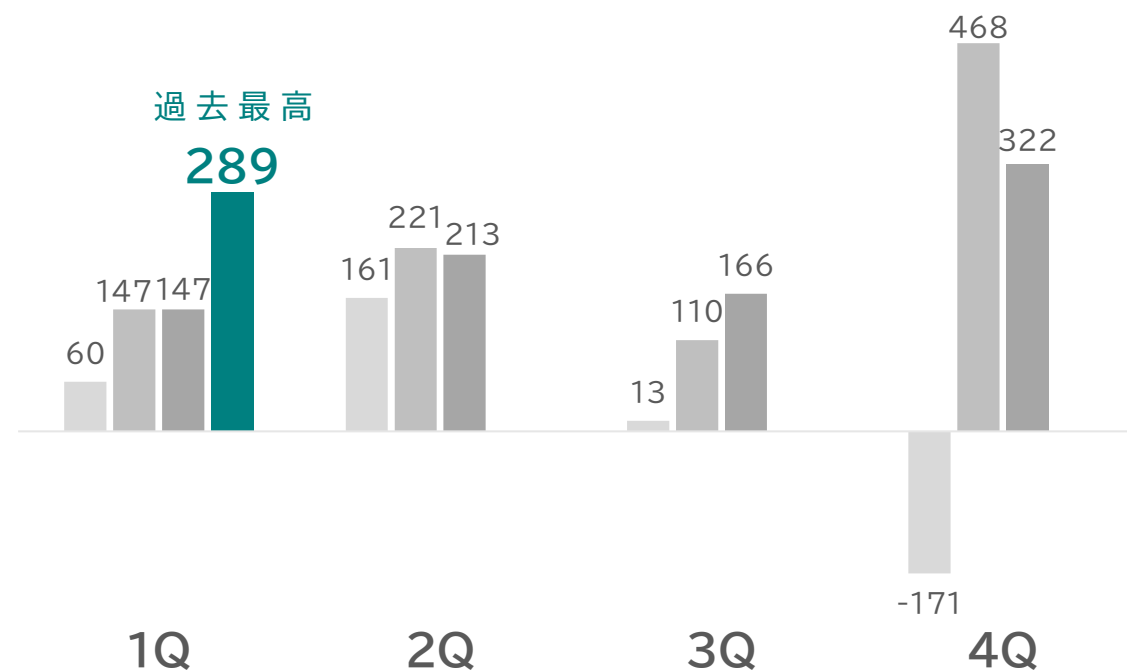
■ 18/12期 ■ 19/12期 ■ 20/12期 ■ 21/12期



営業利益(四半期別)

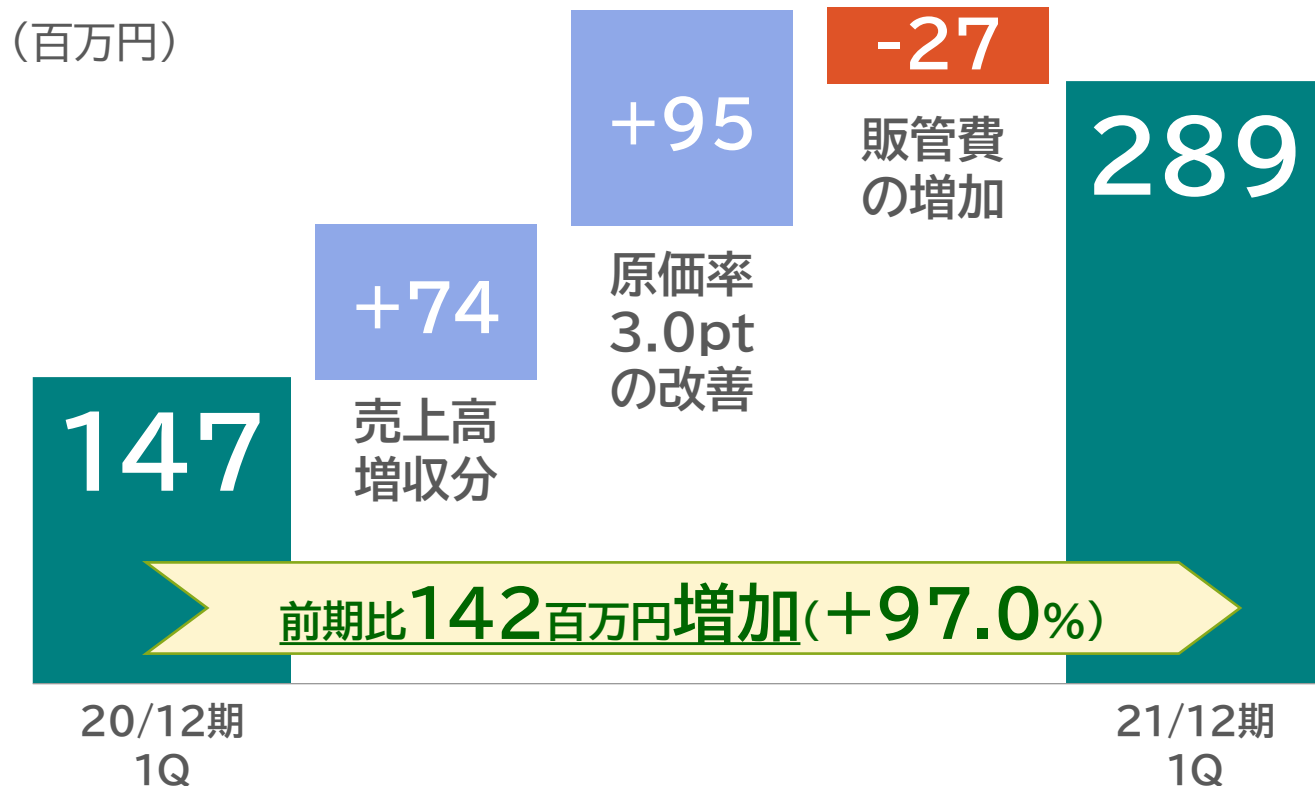
(百万円)

■ 18/12期 ■ 19/12期 ■ 20/12期 ■ 21/12期



営業利益の変動要因

・増収、原価率の改善がそれぞれ寄与。収益性も改善し、営業利益は大きく増加



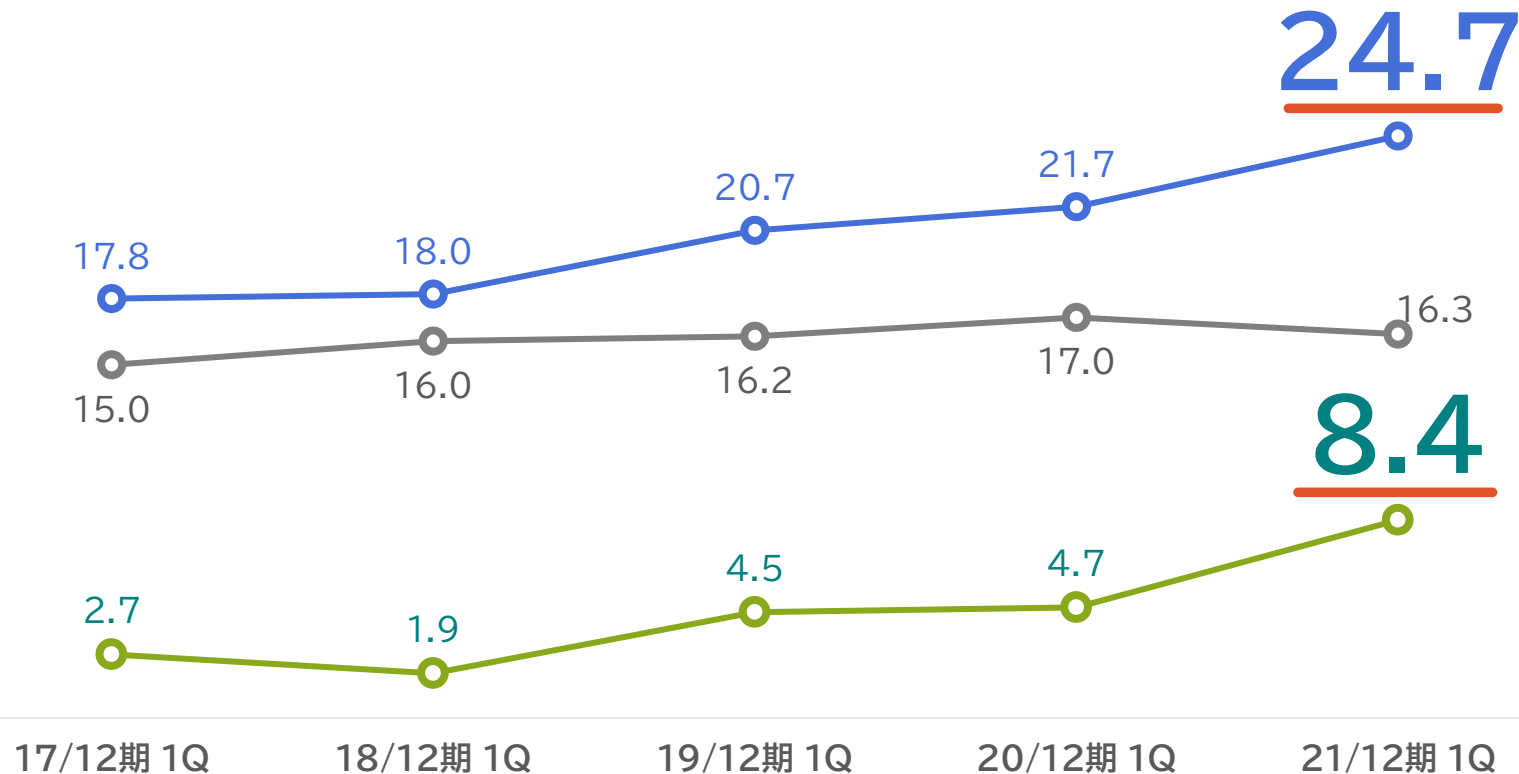
【主なポイント】

- ・DXニーズの拡大等により、収益性の高いクレジット関連やFinTech関連の案件が増加、増収とともに案件単価も向上
- ・パートナーへの外注費も下落傾向
- ・子会社のインターディメンションズを株式譲渡したことにより、労務費などのコストも低減
- ・販管費も額は増加しているが、売上高比率では前年同期比から-0.7pt低減しており、平常水準

収益性改善により、利益率が向上中

・収益性の改善により、各利益率は過去最高水準を記録

● 売上総利益率(%) ● 販管費率(%) ● 営業利益率(%)



売上総利益率
営業利益率

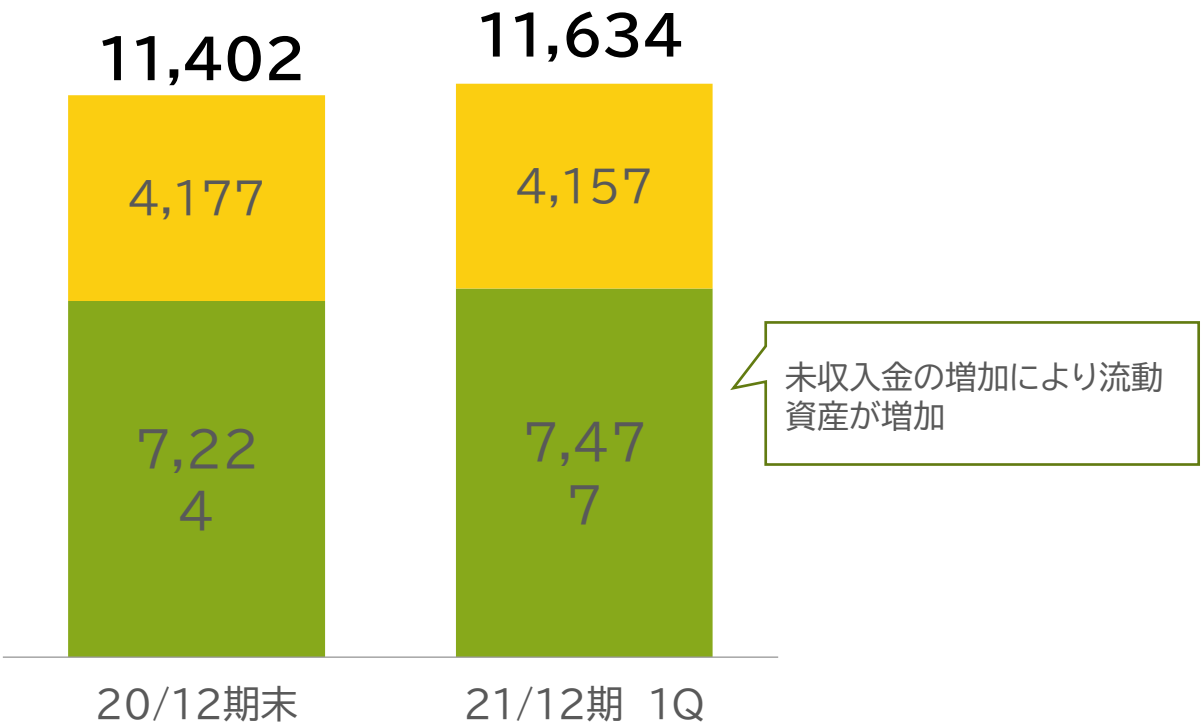
ともに大きく
上昇中

貸借対照表

・自己資本比率は55.5%と健全な範囲で推移

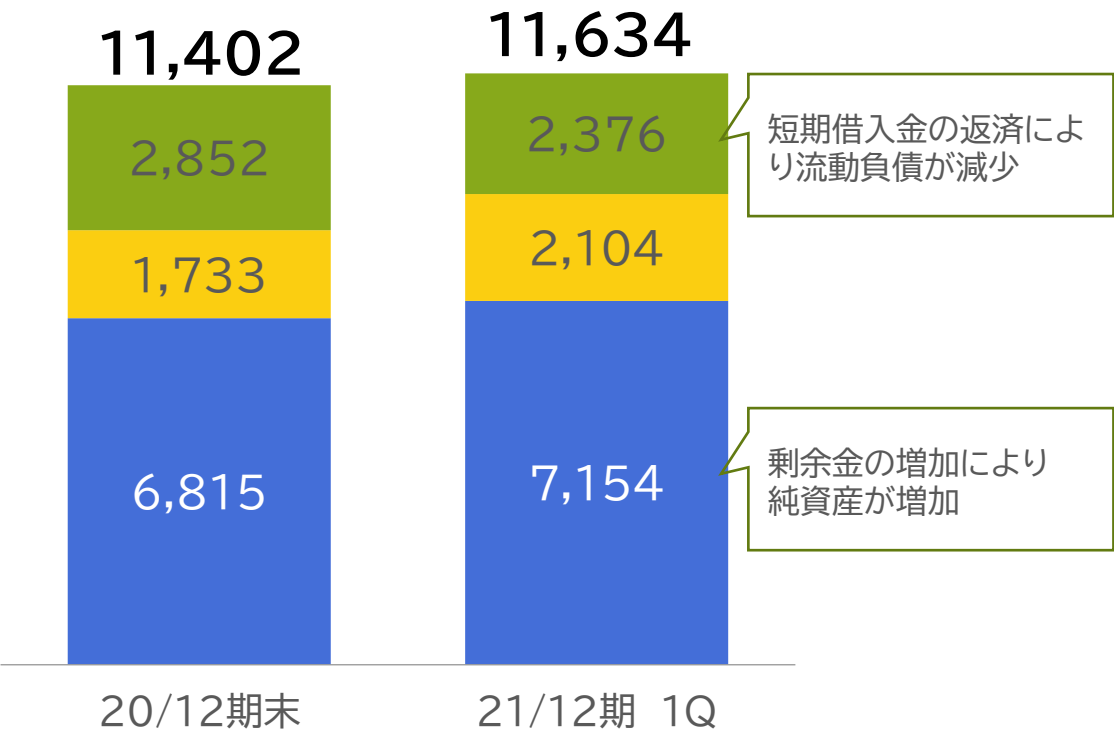
資産

■ 固定資産 ■ 流動資産



負債・純資産

■ 流動負債 ■ 固定負債 ■ 純資産



セグメントの変更および セグメント・各子会社の業績



デジタルトランスフォーメーション（DX）へ吹く追い風

- ・新型コロナウイルスがもたらした生活様式の変化や政府のデジタル化への補助により、DXを通じたあらゆる既存ビジネスで新たな付加価値創出の機会が生まれ、DX・デジタル化へのニーズは加速
- ・DXニーズを確実に獲得するため、ソフトウェア開発事業を強化

事業分野

金融

小売

官公庁

製造業

×

DX

÷



SOLXYZ

当社が開発を支援・担当

新たな開発案件

FinTech

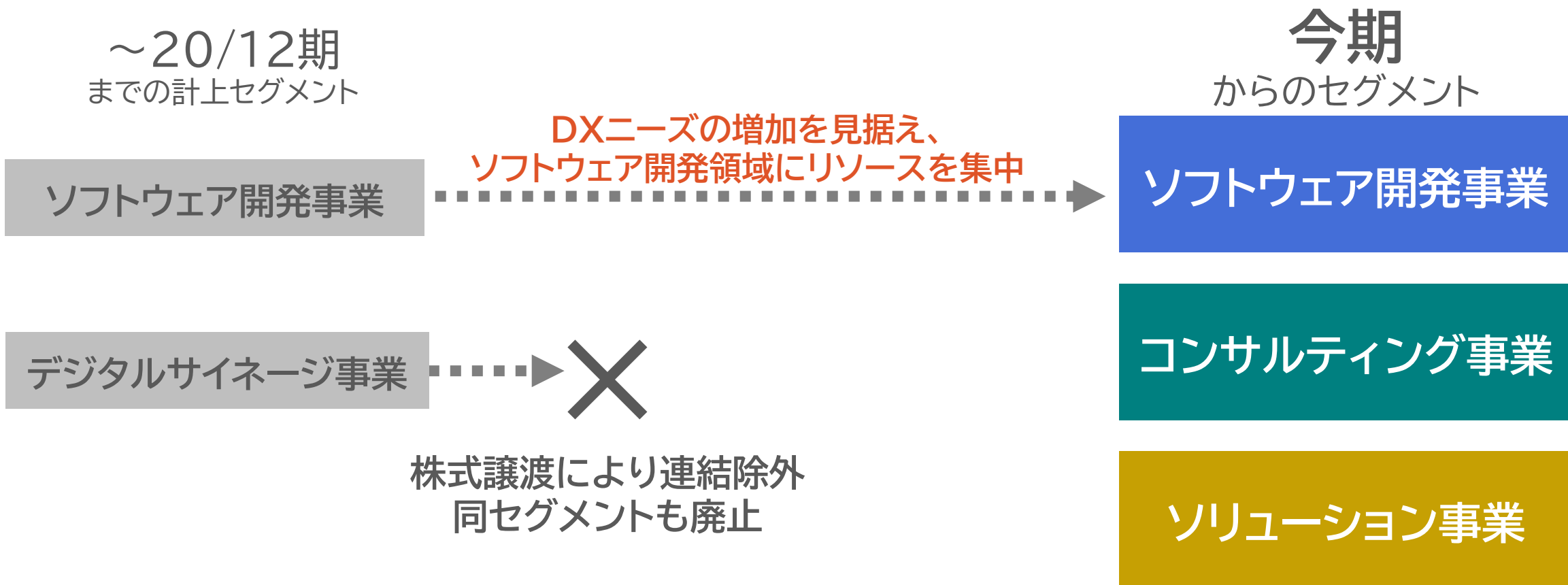
EC&D2C

行政オンライン化
(デジタル庁)

ロボット/IIoT

インターディメンションズの株式譲渡とセグメントの変更

- ・今期より事業セグメントをソフトウェア開発、コンサルティング、ソリューションの3事業に変更
- ・事業ポートフォリオの見直しで開発体制およびDXニーズへの対応力を強化



新セグメントの詳細と役割

- ・各セグメントで役割を明確化。DXを含む開発案件のニーズ増を着実に取り込みながら、将来の成長ドライバーへの注力、事業間のシナジー発揮にも取り組む

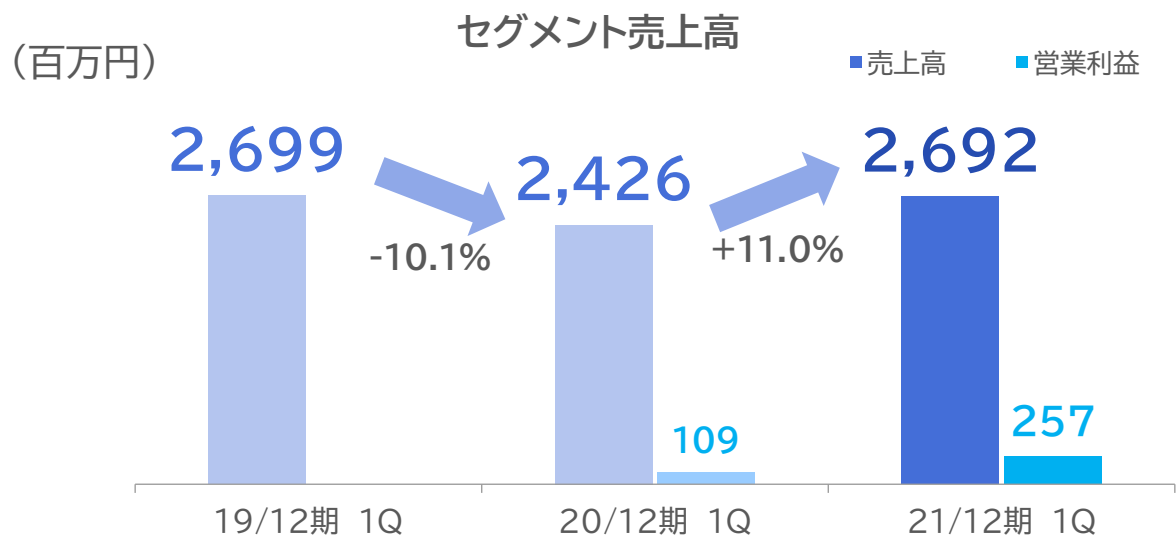


セグメント別売上高

- ・全セグメントで前期より増収
- ・クレジット関連やFinTech関連の伸長により、特にソフトウェア開発事業が伸長

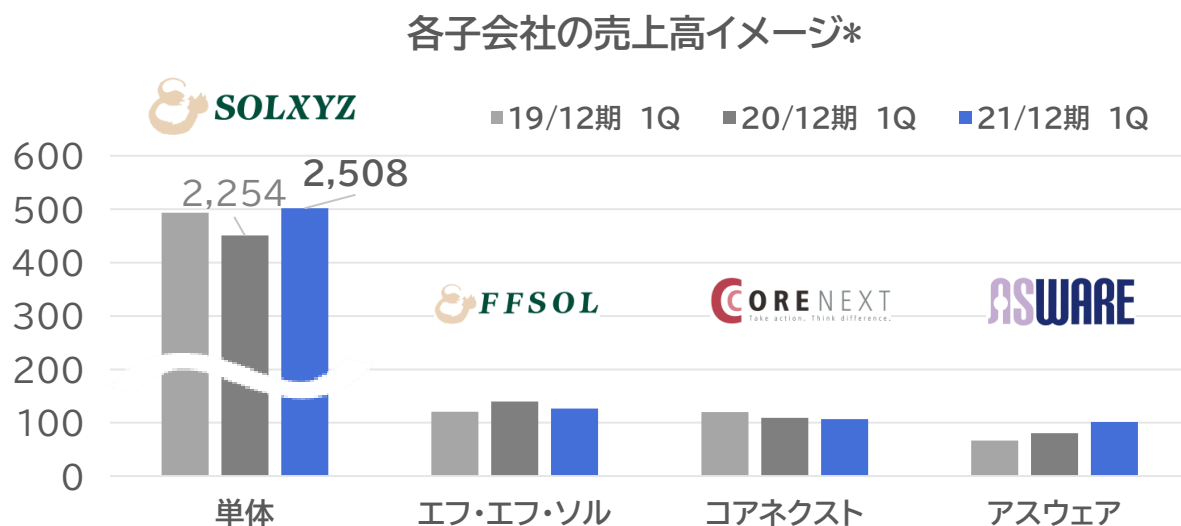
(単位:百万円)		2020/12期 1Q	売上高比	2021/12期 1Q	売上高比	前年同期比 増減率
連結売上高		3,150	-	3,453	-	+9.6%
	ソフトウェア開発事業	2,426	77.0%	2,692	78.0%	<u>+11.0%</u>
	コンサルティング事業	299	9.5%	310	9.0%	+3.5%
	ソリューション事業	424	13.5%	450	13.0%	+6.0%

セグメント別推移-ソフトウェア開発事業



□ 売上高:2,692百万円
前期比: +11.0%

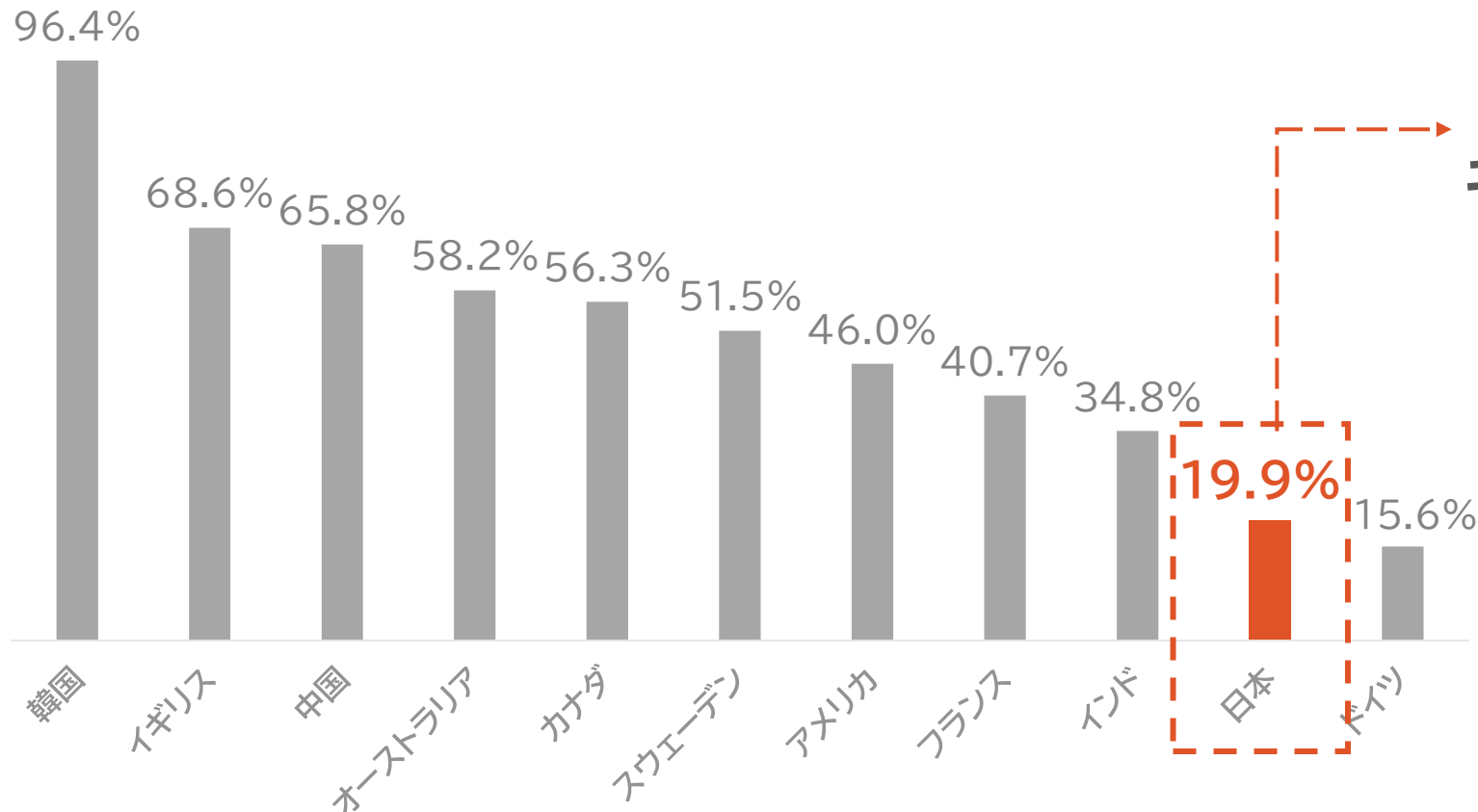
- ✓ IT投資の回復やDXの機運の高まり等により好調
- ✓ 金融系はクレジット分野の開発案件が好調
- ✓ 産業系は通信(5G関連含む)や流通関連の開発案件が伸長
- ✓ 子会社も概ね順調、FinTech案件の獲得も進む



市場規模: キャッシュレス決済市場

- ・日本のキャッシュレス決済比率は約20%と諸外国に比べて低く、政府は2025年までに比率を40%とする目標を掲げている

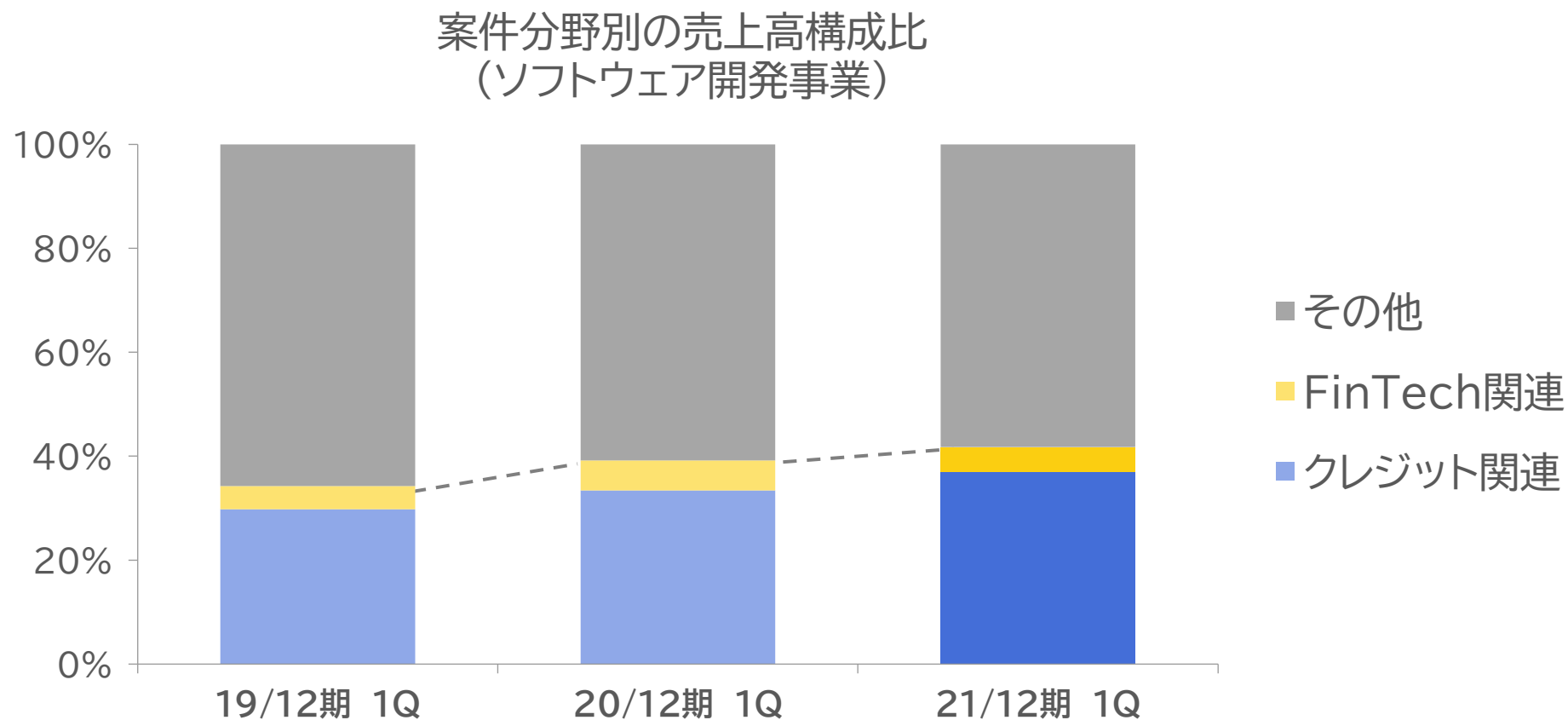
世界各国のキャッシュレス比率(2016年)*



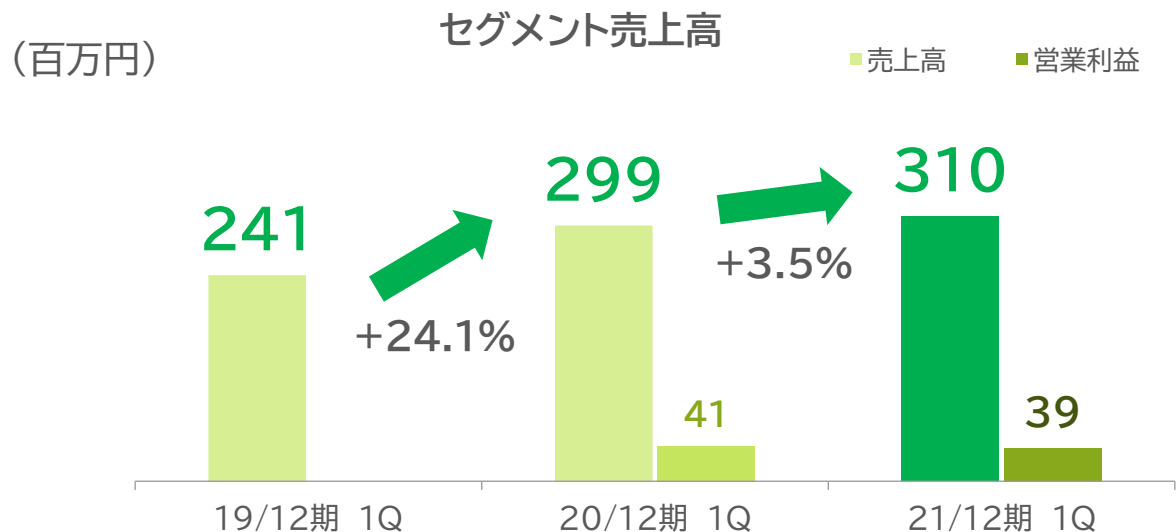
政府は2025年までに
キャッシュレス比率を**倍増**
(40%へ)させるべく、
様々な国策を展開
(将来的に80%の比率が目標)

クレジット関連、FinTech関連の案件が漸増

- ・金融業界でのDXの加速や新型コロナウイルスの影響により、キャッシュレスや電子決済、地銀再編など、新たな金融プラットフォームの開発案件が増加
- ・ソフトウェア開発事業の売上高に占めるクレジット関連やFinTech関連業務の比率が上昇中



セグメント別推移-コンサルティング事業

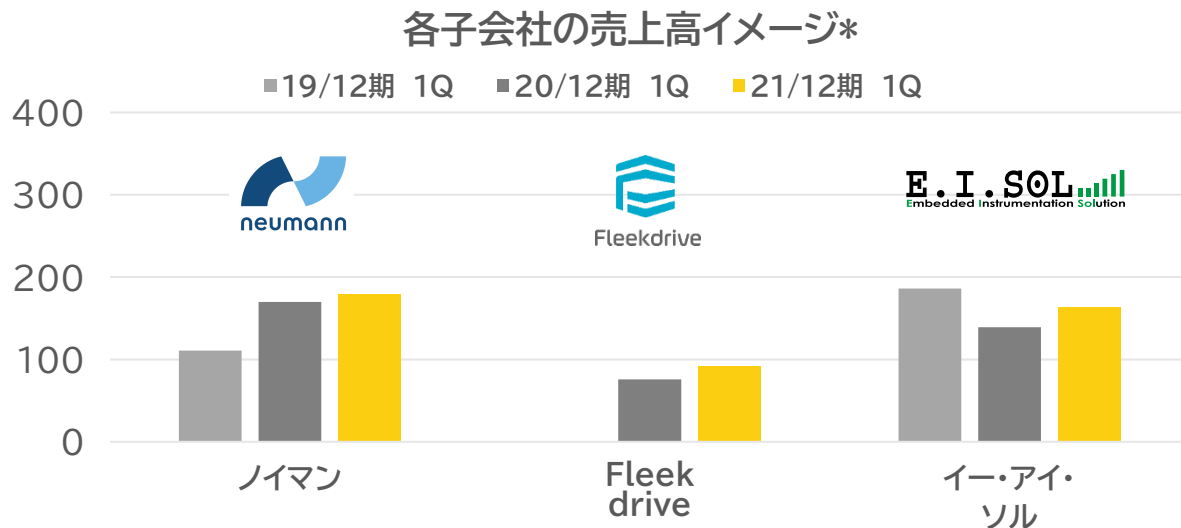
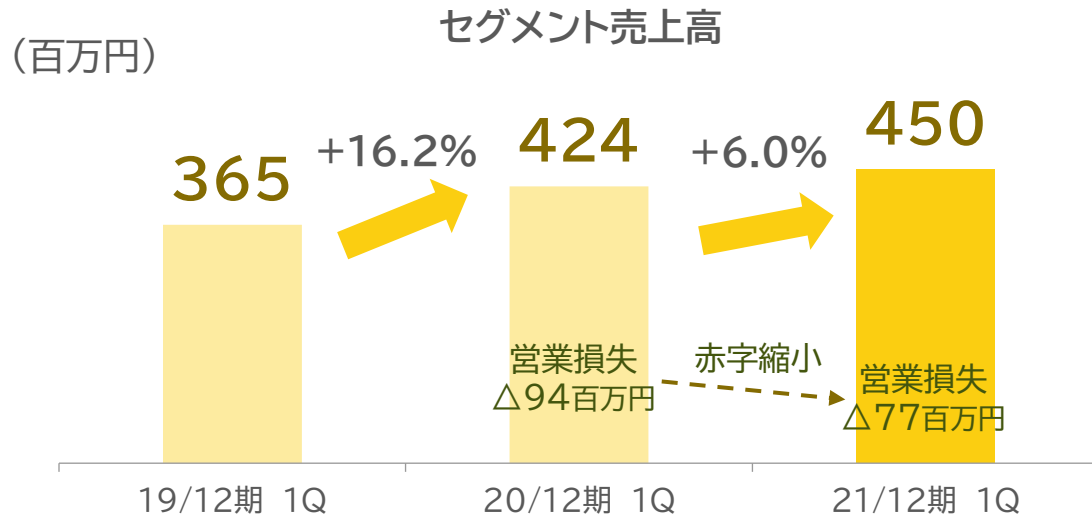


□ 売上高:310百万円
前期比: +3.5%



- ✓ 新型コロナウイルスの影響も一服し、堅調な推移
- ✓ 主力のエクスマーションに一部影響が残るが、新型コロナ禍の影響から徐々に回復し増収増益、稼働率の改善に向け採用も強化中
- ✓ 昨年子会社化したアリアドネの数字での貢献はこれからだが、海外顧客とのキャッシュレス決済案件が複数進行中

セグメント別推移-ソリューション事業



□ 売上高:450百万円
前期比: +6.0%

- ✓ 子会社の案件の一部で期ズレが発生するも、全体では前期比より堅調に増加
- ✓ イー・アイ・ソルは、半導体業界の好調もあり、受託開発・予知保全案件ともに伸長し、増収増益
- ✓ クラウドソリューションFleekdriveの契約社数は3月末で650社弱となり、昨年12月末の600社から堅調に増加
- ✓ ノイマンは5月より自動車教習所のオンライン学科ツールを提供開始

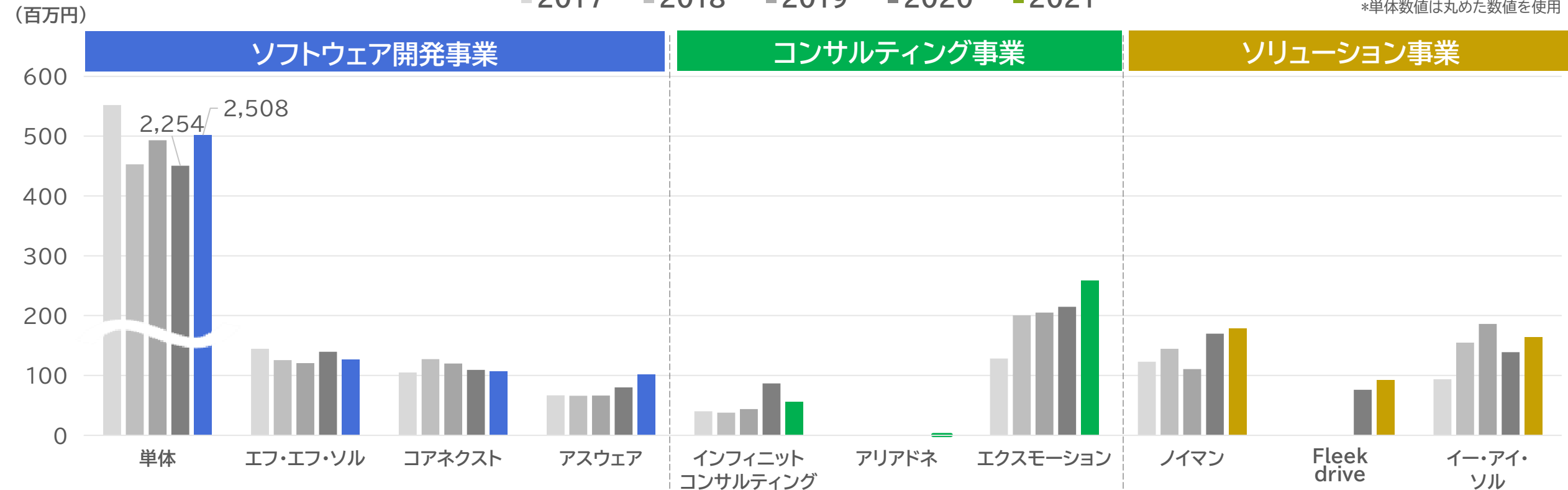
グループ子会社の業績概観(1Q売上高)

- ・子会社で濃淡はあるが、新型コロナウイルスの影響から回復の兆しをみせ、企業のIT投資も再開
- ・ソルクシーズ本体や、成長路線に戻ったエクスマーシオン、イー・アイ・ソル等が特に好調に推移

各子会社の1Q売上高 5か年推移*

■ 2017 ■ 2018 ■ 2019 ■ 2020 ■ 2021

*数値は非開示(左軸)
*単体数値は丸めた数値を使用



各子会社・単体の業績概況

ソフトウェア開発事業

		業績(前年同期比)	
	(株)ソルクシーズ(単体) クレジット関連の案件が好調	増収	増益
	(株)エフ・エフ・ソル 減収も、FinTech案件の増加で利益率向上	減収	増益
	(株)コアネクスト 新規顧客開拓や新規ビジネスが遅延中	減収	減益
	(株)アスウェア 豊富な案件を背景に堅調に推移	増収	増益

コンサルティング事業

		業績(前年同期比)	
	(株)インフィニットコンサルティング 新規案件獲得が低調	減収	減益
	(株)エクスマーション コロナ禍の影響は一巡、顧客大手の予算執行も再開され、回復基調	増収	増益
	(株)アリアドネ・インターナショナル・コンサルティング コロナ禍で対象企業の活動自粛が影響	堅調	

ソリューション事業

		業績(前年同期比)	
	(株)ノイマン eラーニング等提供ソリューション増加で好調	増収	増益
	(株)Fleekdrive(フリークドライブ) 契約数・アカウント数ともに堅調に積上がり	増収	増益
	(株)イー・アイ・ソル 鉄道関連中心にIoTソリューション、受託開発が好調	増収	増益

通期業績予想と進捗



通期業績予想

- ・企業のIT(DX)投資の回復もあり増収増益、**売上高・各利益ともに過去最高値の更新**を見込む
- ・インターディメンションズの株式譲渡の影響により当期純利益が大きく増加、収益性も改善する見込み

(単位:百万円)	2020/12期		2021/12期		前年同期比 増減率
	実績	売上高比	予想	売上高比	
売上高	13,186	-	14,300	-	+8.4%
売上総利益	3,063	23.2%	3,300	23.1%	+7.7%
営業利益	848	6.4%	1,000	7.0%	+17.9%
経常利益	999	7.6%	1,100	7.7%	+10.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	593	4.5%	1,070	7.5%	+80.4%
EPS(円)	49.55	-	88.88	-	+79.4%

上半期(第2四半期累計)業績予想

- ・通期同様、上半期も増収増益を見込む
- ・従来どおり、下期偏重の業績進捗を想定

(単位:百万円)	2020/12期 2Q 実績	2021/12期 2Q 予想	前年同期比 増減	通期進捗率
売上高	6,400	7,000	9.4%	49.0%
売上総利益	1,460	1,600	<u>9.5%</u>	48.5%
営業利益	360	400	<u>11.0%</u>	40.0%
経常利益	381	500	31.0%	45.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	255	640	<u>150.1%</u>	59.8%

業績予想進捗

- ・1Qではほぼ計画どおりの着地、進捗率は良好
- ・一部案件の期ズレや不透明な経済環境を考慮し、2Qおよび通期業績予想は据え置き

(単位:百万円)	2021/12期			2Q進捗率	通期進捗率
	1Q実績	2Q予想	通期予想		
売上高	3,453	7,000	14,300	49.3%	24.1%
売上総利益	853	1,600	3,300	53.3%	25.8%
営業利益	289	400	1,000	<u>72.3%</u>	<u>28.9%</u>
経常利益	317	500	1,100	<u>63.4%</u>	<u>28.8%</u>
親会社株主に帰属する 当期純利益	566	640	1,070	<u>88.4%</u>	<u>52.9%</u>

株主還元方針

- ・今期はインターディメンションズの株式譲渡に伴う法人税変動等の特殊要因も考慮し、現時点では保守的な予想
- ・今後も業績や配当性向を考慮しながら、安定した配当の実施を重視

年度	中間	期末	合計	配当性向
2019年12月期	0.00円	16.00円 (増配を実施)	16.00円 (増配を実施)	34.3%
2020年12月期	0.00円	17.00円 (増配を実施)	17.00円 (増配を実施)	34.3%
2021年12月期(予)	0.00円	17.00円	17.00円	19.1%

中期経営計画(21/12期～23/12期)

(ローリング方式、21/2/12公表時より変更なし)



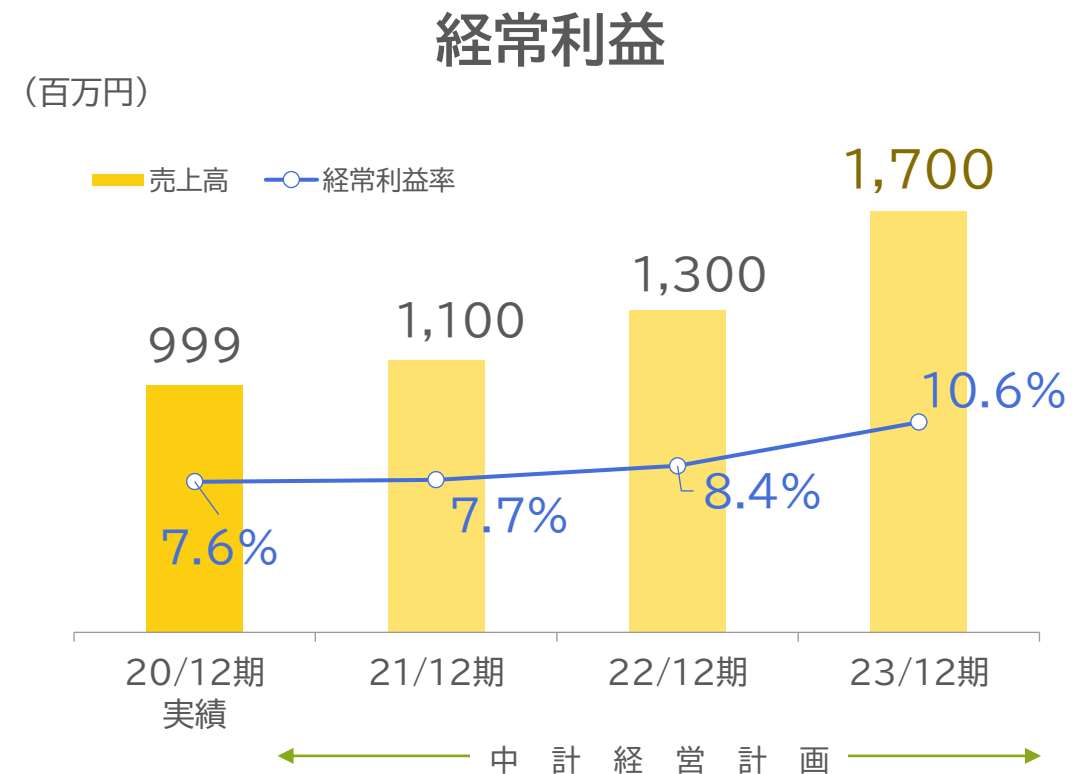
中長期の環境認識/当社戦略方針

- ・クラウド化、IoT、CASE等を前提としたサービスも始まり、デジタルトランスフォーメーション(DX)は一層加速
- ・各分野に特化した子会社により、どの分野にも対応できる技術力がある一方、増えるニーズを取り込みきれる組織力の強化を推進

各先端技術	環境認識	当社の戦略方針・施策
全体(DX)	<u>働き方改革や業務効率化の推進により、企業のIT投資・自動化は堅調に推移</u>	経営リソースをDX分野に集中させ、グループ全体で需要をキャッチアップ
クラウド コンピューティング	新型コロナウイルスの拡大を背景としたテレワークの採用拡大を追い風に、企業のクラウド化は一層加速。データ共有だけでなく業務処理のクラウド化も進む。	クラウドサービスを提供する(株)Fleekdriveを中心に展開。 AIのサービス化とのシナジー、海外展開も視野に重点的に展開
IoT	<u>業務効率化やコスト削減を目的としたIoT利用の時代から、IoTを前提とした新サービス創出の時代へと移り、需要も好調。</u>	IoT推進室を中心に、子会社で強みを持つセンサー技術を組み合わせ、工場での予知保全システム等、 IIoTも視野に入れた新ソリューションを創出。
CASE	<u>2020年より一定の状況下での手放し運転が実装され、次世代コクピットやコネクテッドカーなど、車両に追加されるソフトウェアは急増。環境が劇的に変化。</u>	エクスモーションを中心とし支援体制を強化。AI技術を持つ企業との連携も視野に入れ、グループシナジーを最大化。
FinTech	新型コロナウイルスの影響により、ECやネット決済、クレジット利用といった非接触型サービスの重要性が増す。今後はブロックチェーンを核にした様々な業界向けのサービスが生まれようとしている。	ブロックチェーンや仮想通貨に関する開発案件へ参画開始。 現在の銀行業務向けから、今後は金融(FinTech)分野全体への拡大へ取り組む。
AI	クラウド型AIやAIスピーカーなどの普及でAIが一般化。働き方改革の実現に向け、 <u>RPA導入も進む。</u>	資本参加した企業のAI技術を核に、ソルクシーズグループの顧客に対してAI活用の提案を開始。横展開可能なソリューションの開発を目指す。

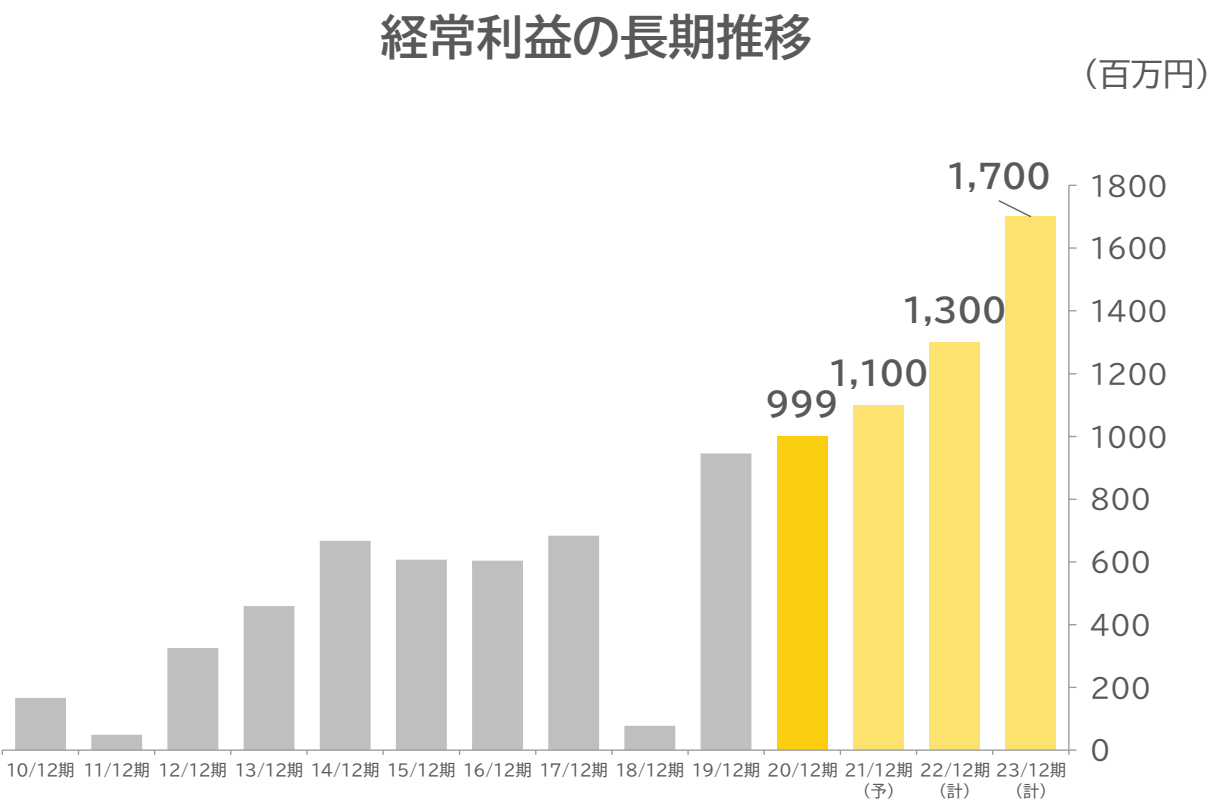
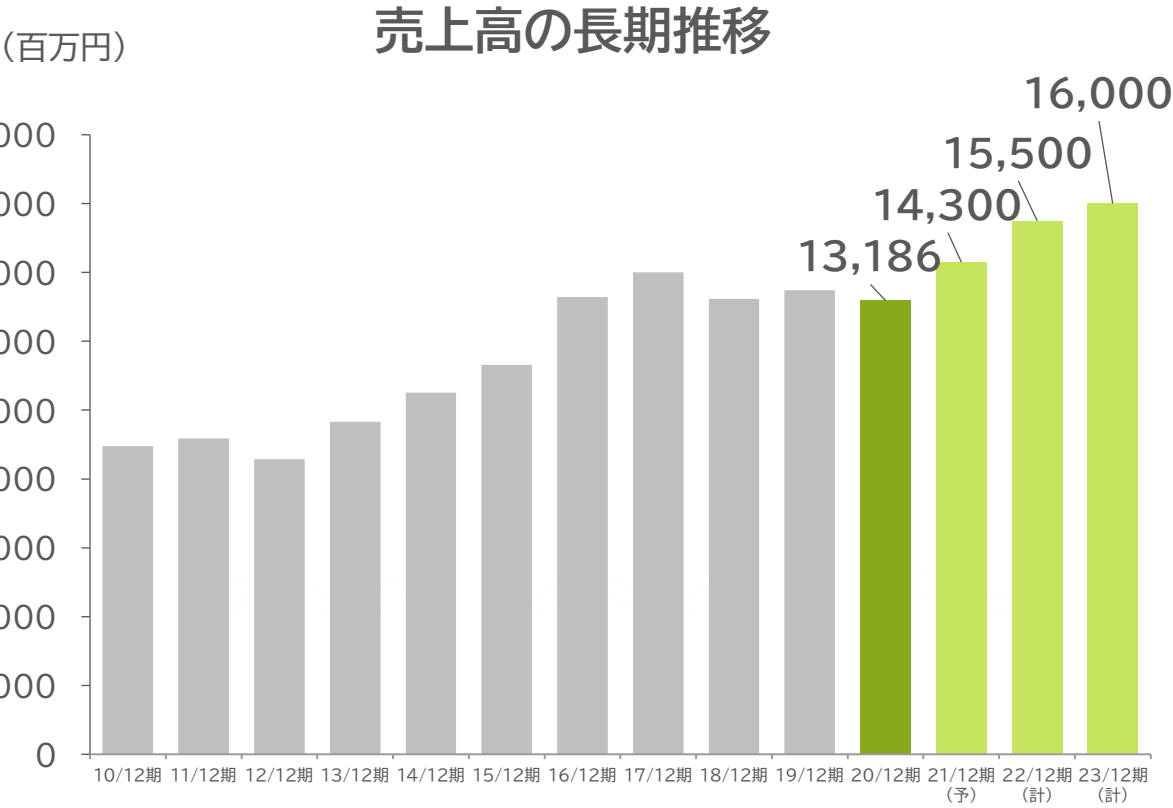
中期経営計画(ローリング方式)

- 新型コロナウイルスの影響を踏まえ、20/12期に策定した計画値をそのまま1年後ろ倒し
- 売上高、経常利益ともに過去最高値を每期更新する予定
- スtock型ビジネスの強化などにより、利益および利益率は今後も高い伸びを見込む



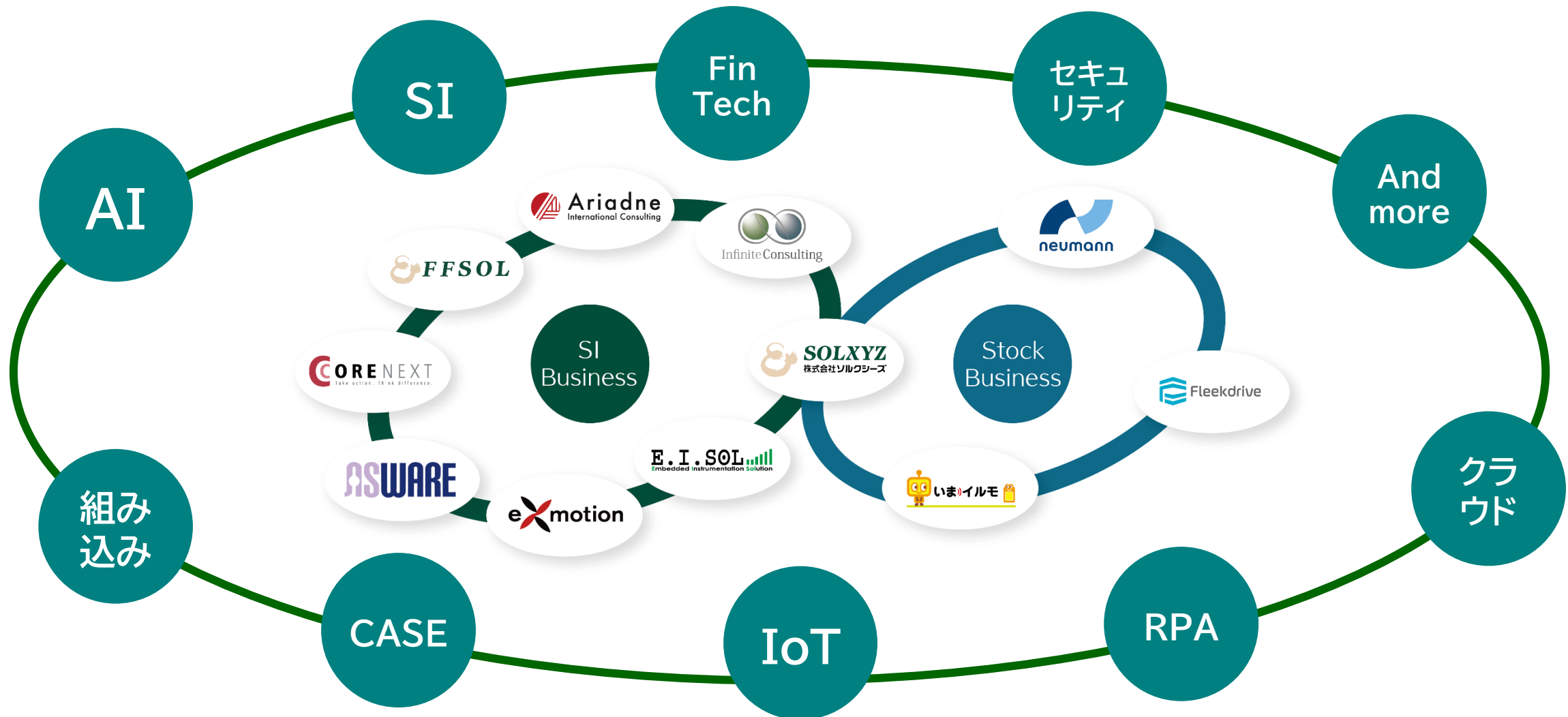
過去最高水準の業績へ

・売上高、経常利益ともに過去最高値を每期更新する計画



基本方針: グループ全体で最新分野をカバー(専門店化戦略)

- 各分野で専門化された子会社を端緒に、最先端の案件ニーズを確保

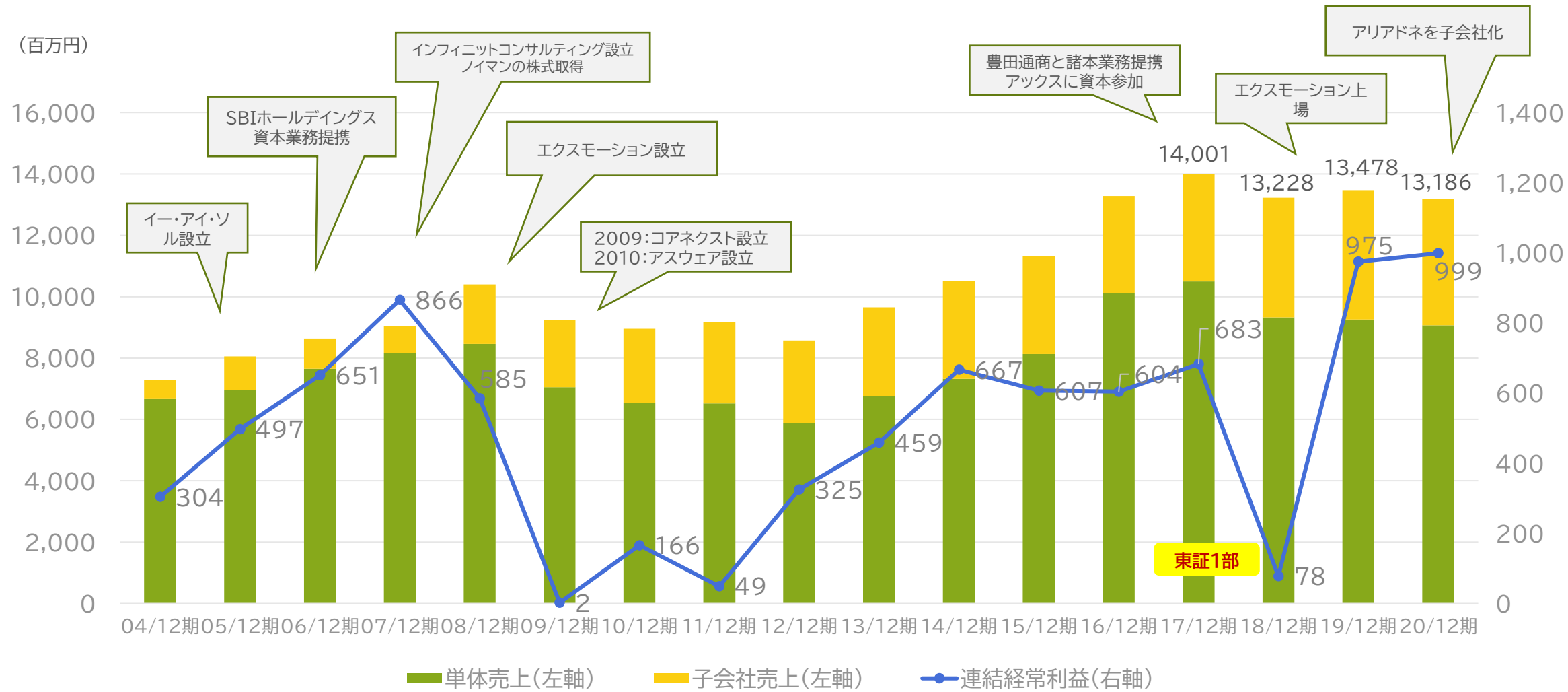


APPENDIX



長期業績推移

連結売上高/経常利益 (百万円)



沿革

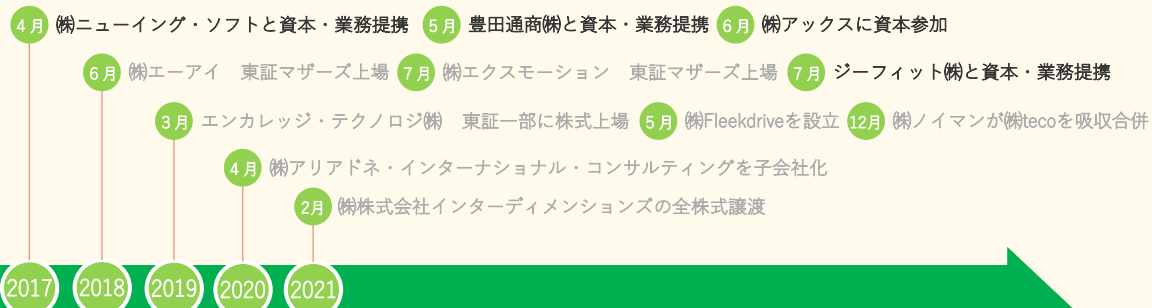
設立～上場



グループ構築開始～東証一部上場



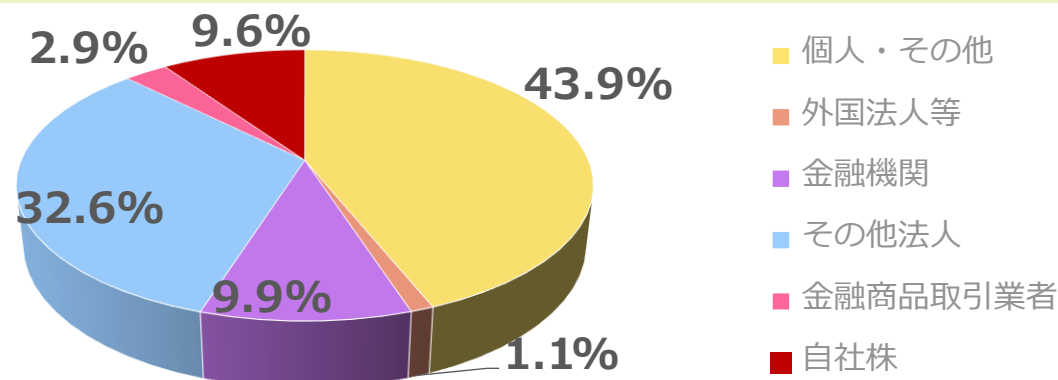
企業価値向上に向けた新たなステージ



会社概要

商号:	株式会社ソルクシーズ (SOLXYZ Co., Ltd.)
設立:	1981年2月4日
事業内容:	ソフトウェア開発・運用・保守、組み込みソリューション
本社所在地:	東京都港区芝浦3-1-21
資本金:	14億9,450万円(2020/12月末現在)
決算期:	12月31日
従業員数	連結:755名 2020/12月末
役員:	代表取締役社長 長尾 章 他常勤取締役 11名、社外取締役 3名、監査等委員設置
子会社:	10社

2020/12末
株主構成



代表取締役社長 長尾 章

1955年2月23日生
1983年3月 トータルシステムコンサルタント設立 取締役
1998年1月 合併により当社専務取締役
2006年3月 当社代表取締役社長に就任
他グループ企業10社の取締役兼務

免責事項

当資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関する情報は、当資料作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものです。

しかしながら、実際には通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、当資料記載の業績見通しとは異なるリスクを含んでおります。

当社は、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的開示に努めてまいります。当資料記載の業績見通しのみに全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等を行わないようお願いいたします。

【本資料へのお問い合わせ先】

株式会社 ソルクシーズ 経営企画室 秋山

E-mail: ir-post@solxyz.co.jp

Tel: 03-6722-5011 Fax: 03-6722-5021

<https://www.solxyz.co.jp>

